

2. 調査結果について

2.1. 児童生徒対象の調査結果について（単純集計）

本章では、「こどもの居場所に関する実態調査」（以下、本調査）における児童生徒対象調査の回答結果をもとに扱っていく。当事者たる児童生徒の声が集まっており、児童生徒の今を映し出す調査となっていると考える。

2.1.1 回答者の属性について

以下、まずは対象となる児童生徒の属性を明らかにしていく。属性については、表 2-1-1・表 2-1-2・表 2-1-3・表 2-1-4 の通りとなった。

対象となる児童生徒の半数が「中学生」(51.0%)であり、次いで、「小学生」(37.0%)であった。男女比はほぼ同じ数であり、同居家族の中では母親、父親、きょうだいと同居している状況が明らかとなった。

表 2-1-1 圏域ごとの回答数

		度数	パーセント
有効	鹿児島地域振興局	234	42.2
	南薩地域振興局	42	7.6
	北薩地域振興局	66	11.9
	始良・伊佐地域振興局	103	18.6
	大隅地域振興局	50	9
	熊毛支庁	16	2.9
	大島支庁	34	6.1
	不明	10	1.8
	合計	555	100

表 2-1-2 学年別回答数

	度数	パーセント
小学 1 年生 (1年生)	11	2
小学 2 年生 (2年生)	20	3.6
小学 3 年生 (3年生)	27	4.9
小学 4 年生 (4年生)	44	7.9
小学 5 年生 (5年生)	37	6.7
小学 6 年生 (6年生)	66	11.9
中学 1 年生 (7年生)	71	12.8
中学 2 年生 (8年生)	115	20.7
中学 3 年生 (9年生)	97	17.5
高校 1 年生	23	4.1
高校 2 年生	26	4.7
高校 3 年生	16	2.9
無回答	2	0.4
合計	555	100

表 2-1-3 対象児童生徒の校種別回答数

		度数	パーセント
有効	小学校	195	35.1
	中学校	272	49
	高等学校	54	9.7
	特別支援学校	20	3.6
	私立学校	1	0.2
	国立小中学校	1	0.2
	不明	10	1.8
	無回答	2	0.4
合計		555	100

表 2-1-4 対象児童生徒の性別

	度数	パーセント
男性（おとこのこ）	239	43.1
女性（おんなのこ）	289	52.1
こたえたくない	23	4.1
無回答	4	0.7
合計	555	100

表 2-1-5 対象児童生徒の同居者

	応答数 総回答数	パーセント 全体に係る%	ケースのパーセント 回答した児童生徒に対する割合
お父さん	407	27.4%	73.5%
お母さん	537	36.1%	96.9%
おじいちゃん	36	2.4%	6.5%
おばあちゃん	58	3.9%	10.5%
きょうだい	427	28.7%	77.1%
親戚	3	0.2%	0.5%
その他	19	1.3%	3.4%
合計	1487	100.0%	268.4%

同居者のその他には、「下宿」、「養護施設の職員と児童」、「おじさん」、「ペット」などが挙げられていた。自由回答としては、ペットの記載が一番多かった。この際、「おじさん」については、親類にあたる叔父であるという判断ができなかったため、その他とした。

2.1.2 児童生徒調査の概況について

次に、調査に伴う単純集計の結果を示していく。問2においては、児童生徒が学校に行けなくなった際にどんな所なら行きたいと思ったかを調査した。回答方法は、提示した選択肢より当てはまるものを全て選ぶ回答方式を取った。以下、表 2-1-6 および図 2-1-1 を記す。



図 2-1-1 学校に行けなくなった時、どんな所なら行きたいと思ったか

回答数の多い順に「何時に行ってもいい」、「あなたの好きなペースで勉強できる」、「ゆっくり休めるスペースがある」、「ひとりきりになれるスペースがある」、「音楽を楽しんだり、絵をかいたり、工作ができる」、「インターネットやゲームをしたり、動画を見たりできる」という項目が挙がった。

その他については、以下のような意見が挙がっていた。類似する意見については、とりまとめてカテゴリーを作成した。代表的な声と共に記す。

表 2-1-6 問 2-1 その他（自由記述）

【自宅など安心できる場所】

- ・家、安心できる場所
- ・家みたいにゆっくりできるところがいい。

【人に会わないところ】

- ・人数が少なく、落ち着いているところ。
- ・うるさくないところ
- ・同じくらいの年齢の子と合うのが怖かった。

【母親のそばにいたい】

- ・お母さんと一緒にいれるところ
- ・ママと一緒にいられる

【苦しくないところ】

- ・苦しくない所。今はボランティアに行きたい!!老人ホームとか保育施設とか。

【友人と会える場所】

- ・たくさんの友達をつくれる時間が欲しいです。
- ・友達と会える

【教師との関係が良好であること】

- ・やさしい先生。自分の事を思って言葉をくれる先生。
- ・先生を選べたり、苦手な同級生と関わらない。

【自分のことを尊重してくれる大人のいるところ】

- ・関わる大人の方が固定概念やエゴの重圧が少なく、尊重してくれる人だと行きたいと思います。
- ・大人と子供、差別せずにしっかりお互いに話し合いが出来る所。

【既存の学校のシステムに当てはめないところ】

- ・校則がまったくない。みんなの前で発表しない。（当てられない）
- ・服装が自由（服、靴、体育服も）・時間割りが自分で組むことができる
- ・好きな日に休める

【勉強ができるところ】

- ・勉強が面白いと思える所。 ・しっかり勉強を教えてくれる所。

【好きなことができるところ】

- ・自分の好きなことができる（小説や漫画を持って行ける。）
- ・ゲームしたり勉強したりできる所。

【不登校の子に対する設備があるところ】

- ・不登校の子に対する設備がある。

【どこにも行きたくない】

- ・行きたい所に行っても無理でした。 ・行きたくないです。

【居場所を見つけられた】

- ・1年生から(施設名)に毎日通って楽しく過ごしています。
- ・1年生からフリースクールに通っています。

問2-2については、児童生徒が学校に行けなくなった際に、どの様に過ごしていたかを、「よくしている（いた）（よく行っている（いた））」から「していない（行っていない）」のいずれかから選択してもらった。

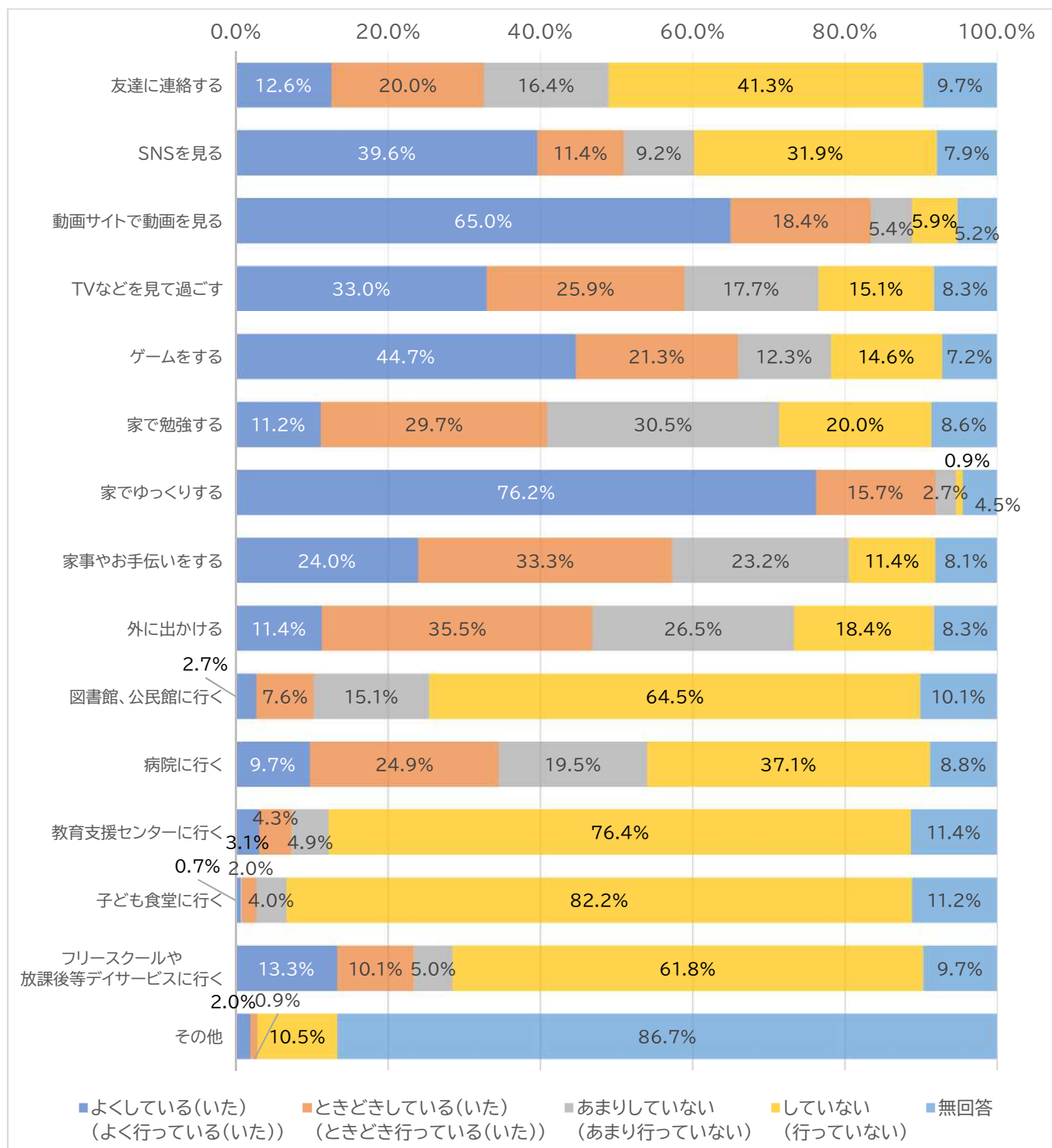


図 2-1-2 学校に行けなくなった時の過ごし方

「家でゆっくりする」(76.2%)、「動画サイトで動画を見る」(65.0%)、「ゲームをする」(44.7%)、「SNS を見る」(39.6%)などの項目が高い値を示した。その他については、表 2-1-7 に示した。内容について概観し、類似していると思われるものでカテゴリー分けを行った。代表的な意見のみ記載した。

表 2-1-7 問 2-2 その他（自由記述）

【公共の機関や施設】

- ・ ふれあい教室
- ・ 教育センター
- ・ 公共施設で勉強していた（休み以外毎日）

【母親の職場】

- ・ お母さん 職場にいたりした。
- ・ 母の仕事場に行き、好きな事をする。
- ・ 母親の仕事について行く。手伝う時もあるが、すぐに疲れたり、集中力がなくなるので、大抵は車で動画を見ていることが多い。

【趣味】

- ・ 自分の好きな事（動画編集）をしていた。
- ・ 趣味をしていた。（折り紙、編み物、雑誌でナンプレを解くなど。）
- ・ 趣味をする。（縫い物・工作）
- ・ 本を読む。

【無気力で新しいことは出来なかった】

- ・ とにかく無気力になり、1年半後支援級に復学するまでは、すすめられても何か新しい事はできなかった。

【インターネット上にある居場所にいた】

- ・ ネットで中等部に参加していた。((通信制学校固有名詞)というところです。)

【祖母の家】

- ・ ばあばの家に行った。

【習い事】

- ・ 習い事（ピアノ）に行ってた。
- ・ 寝る。習い事に行く。

【入院していた】

- ・ 入院していた。

【腹痛が起こってつらかった】

- ・ 腹痛で家のトイレによくこもっていた。

【児童クラブへ行けなかった】

- ・児童クラブあまり行ってない。

【別の居場所や自分自身のペースで登校】

- ・毎日楽しく(固有名詞)に通っています。
- ・好きな時間に学校に登校してる。
- ・不登校の居場所に行っていた。

問 3-1 では、フリースクールや放課後等デイサービスに通った経験のある児童生徒より、役に立った、楽しかった活動について、選択肢の中から第 1 位から第 3 位までをそれぞれ選択してもらったものについて、1 位の度数に 3 点、2 位の度数に 2 点、3 位の度数に 1 点をかけ、重み付けを行ったうえで全ての集計を行い、選択肢の順位を割り出した。

「子どもたち同士で遊ぶ」が 186 点で 1 位となり、以下は図 2-1-3 の通り、ある程度固まった点数となった。

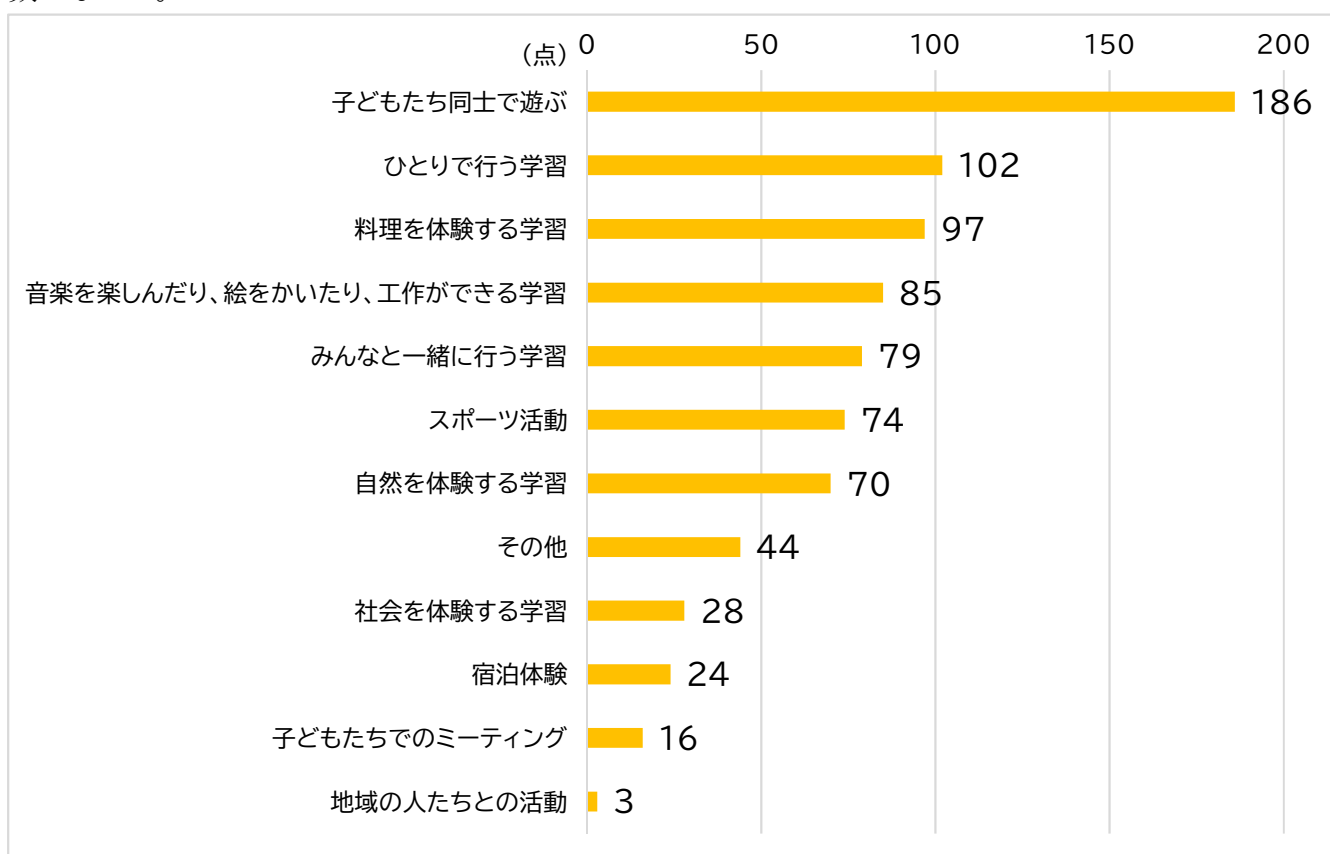


図 2-1-3 フリースクールや放課後等デイサービスで役に立った、楽しかった活動について

その他については、以下の通りとなった。

表 2-1-8 問 3-1 その他（自由記述）

【地域への外出】

- ・ (固有名詞)のブックラウンジへ行く。
- ・ お出かけ。

【趣味活動】

- ・ ゲーム。 ・ 機械を通しての物作り。

【落ち着く場所でくつろぐ】

- ・ こたつがあり落ち着く。気持ちがゆっくりできる。
- ・ 癒しの空間作り。活動の名前は忘れました。テントの中の少し暗い空間で、優しい光をつけて、ふわふわの毛布やヨギボーのクッションでリラックスして、癒される音楽などかけてました。

【楽しかった活動や役に立った活動はなかった】

- ・ 楽しい事は一つもない、先生に授業に行けなど言われる。

【フリースクールや放課後等デイサービスに行けてなかった】

- ・ 学校に行っていない時はフリースクールは断られ放デイは利用していない。
- ・ 通っていない

【フリースクールでも居場所がなかった】

- ・ フリースクールでも授業は1年目は2時間くらいで疲れて、自由時間も誰とも話せず所在なく、すぐ帰ってくるし、お弁当は隠れて食べていた、一日行くと二日間をはさまないとだめだった。朝から午後までいれるまでに1年くらいかかった。

【まだ分からない】

- ・ まだそんなに行っていないからわからない

【皆での活動】

- ・ 皆で考えたその日やりたい事をする事（例）お泊り会、運動会など。
- ・ 人とのコミュニケーションについての学習。

【好きに勉強できる】

- ・ 好きに勉強できる。
- ・ ターピング。(タイピングと判断)

【日常と違う活動】

- ・酸素カプセル、動物とふれあう、人としゃべる。

【先生やスタッフとの関わり】

- ・先生と話をする。
- ・スクールカウンセラーを受けた。

【入院していた】

- ・入院していた。

問 3-2 では、フリースクールや放課後等デイサービスが児童生徒にとってどのような居場所であるかを「思う」から「思わない」までのいずれかから選択してもらった。

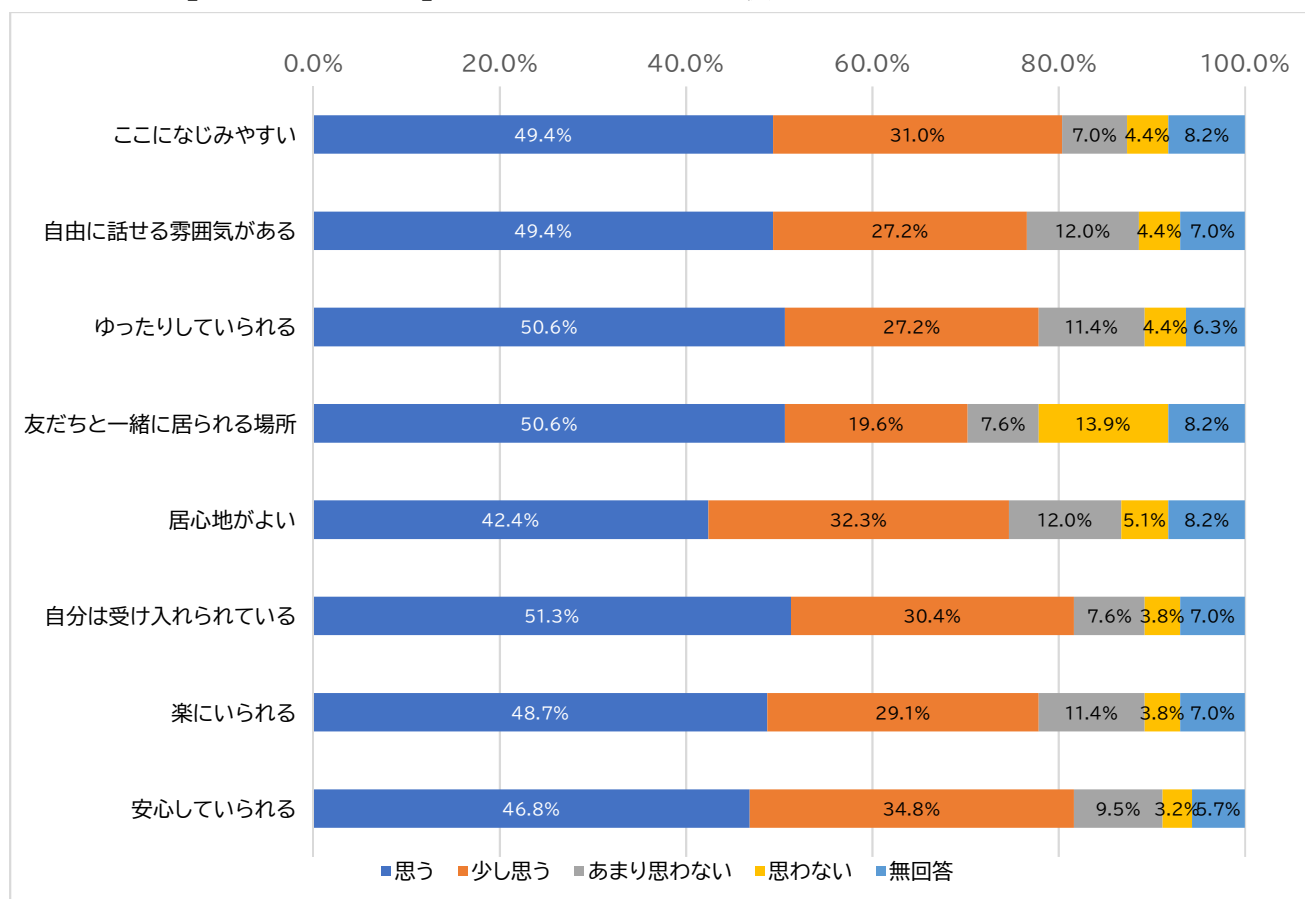


図 2-1-4 フリースクールや放課後等デイサービスはどんな居場所かについて

全ての選択肢について、概ね 8 割程度の児童生徒が肯定的な認識を持っている。他方、選択肢に肯定的な意見しかないことから、調査票作成の段階でマイナスなイメージについても散見させることで、結果が変わる可能性もあり、一概に評価できるかは今後の課題である。

問 4-1 については、児童生徒が学校に行けなくなったきっかけについて、当てはまる選択肢について全て選んでもらう多重回答法で答えてもらった。

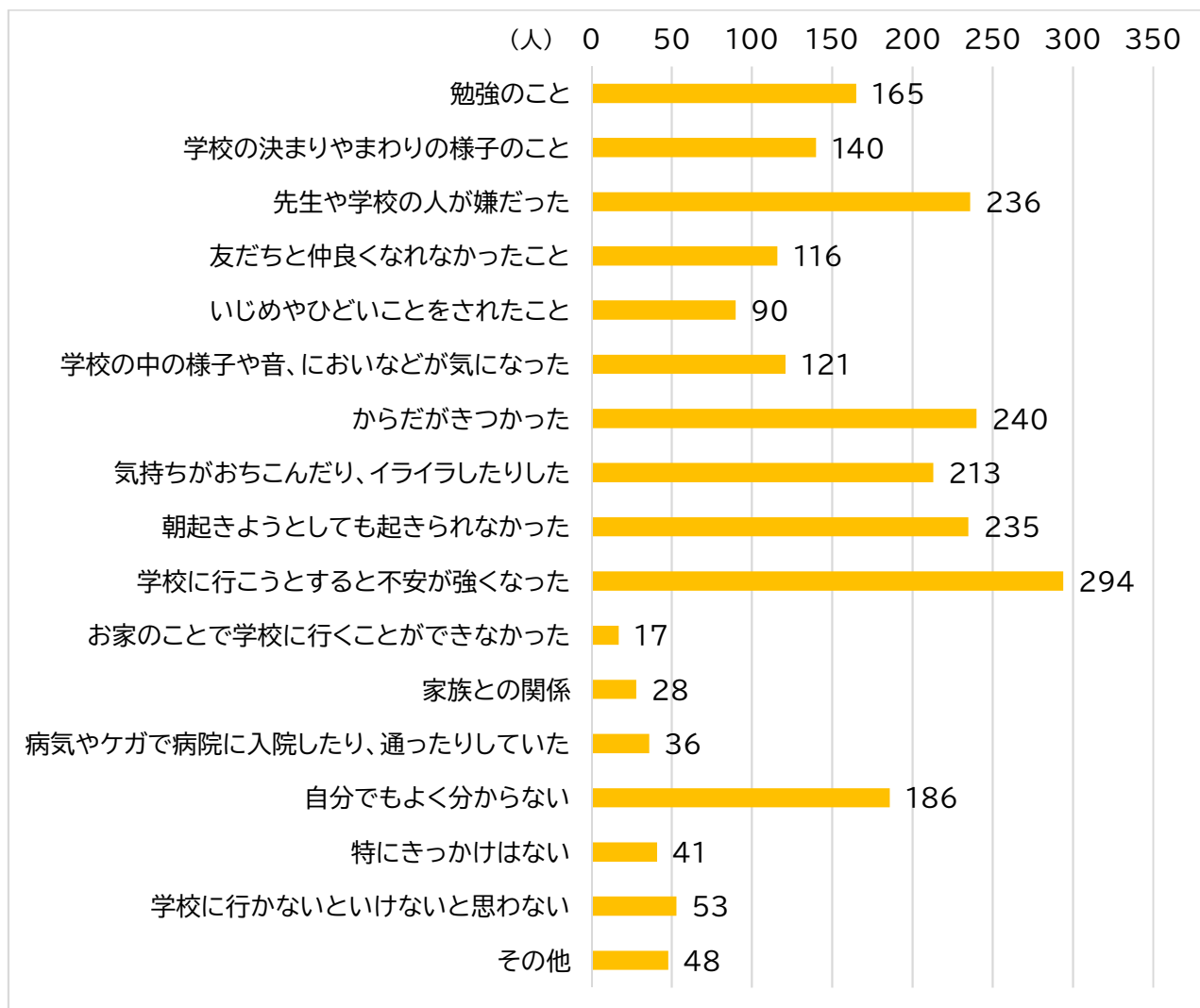


図 2-1-5 学校に行けなくなったきっかけ

回答数の多い順で、「学校に行こうとすると不安が強くなった」、「からだがきつかった」、「先生や学校の人が嫌だった」、「朝起きようとしても起きられなかった」、「気持ちがおちこんだり、イライラしたりした」、「自分でもよく分からない」、「勉強のこと」等の回答が得られた。

その他については、下記の通りとなった。

表 2-1-9 問 4-1 その他（自由記述）

【期待とプレッシャー】

・先生やクラスメイトに変な期待やプレッシャーをかけられてそれがつもりつもって学校のことを考えたくなくなった。

【言いたくない】

- ・言いたくない

【身体の調子が整わない】

- ・トイレの心配。
- ・蕁麻疹ができるようになった。
- ・長い間病気が治らず、体の調子が悪いから。
- ・起立性調節障害になった。
- ・学校や教室に入ると泣いてしまいます。涙が止まりません。
- ・病気が治らず、体の調子が悪いから
- ・てんかんを発症して薬を飲み始めたら、起きられなくなった。お昼からしか行けなくなった。お昼から行っても今まで仲が良かった友達が違う子と仲良くなって話せなかったり、係や実行委員に積極的に参加したい性格なのに出来なかったりして、学校に行きにくくなった。
- ・ コロナはじまり、マスクなど決まり厳しくが変わった。

【家やまわりの環境】

- ・引っ越しの関係で。
- ・席についてずっと話を聞いているだけの学習スタイルが嫌だった。
- ・人がたくさんいると緊張する。
- ・身内に不登校者がいた。
- ・兄弟が行かない

【理由はわからない】

- ・夜は行くと話をするが朝には「行けない」と言います。現在は何に対して不登校の理由が分かっていないような気がします。
- ・毎日つまらなくて心が死んでいってるように感じ、このままでは自分を失うと思った
- ・行きたくない理由ははっきりわからないが、行き渋りの時に両親から引きずって連れて行かれたり、圧をかけられるのがとにかく怖くてしょうがなくてますます行けなくなった。
- ・何も考えたくない。
- ・やる気が出ずに当たり前の事が出来なくなって、「学校に行かないとな」と思っても行けず、どこか他人事に見ている自分と焦る気持ちがあった。

【学校が怖くて不安】

- ・学校は私にとってあまり心地良いところではないです。先生たちも上から目線で、言いたいことも言えないし、言っても怒られる感じで怖いです。
- ・学校に通うのが普通に嫌だった。
- ・学校に行こうとすると涙が出てきて、行きたくないと思ったから。

- ・学校にいと急にな不安になった。
- ・学校がこわい。

【学校内の人間関係】

- ・中学生1年の5月にLINEの学年全体で集まっているグループ(およそ学年の半分の70名が参加していた)で2人からいじめのような発言をされました。なので5のチェックは肉体的ないじめではないです。
- ・男性が怖い。
- ・元親友に無視され続けた。
- ・友達と話すのが怖かった。友達というより一人の方が楽しい。学校に行ってた4~5月前半勉強をしっかりと教えてくれなかった。
- ・クラスでうるさい人がいた。うざいなあと思っていた。あげあしをとったり、ちょっかいを出してくる男子がいた。授業中もうるさかった。いつも、嫌なことを言うてくるので、次第に話しかけられるのが怖くなってきた。そのうち、女子の友達まで嫌になってきて、クラスに入るのも怖くなってきた。

【先生との関係】

- ・先生方の圧や生徒の方々の集合意識が強く感じ、馴染めなくなった。
- ・先生の大きな声。(他の児童を注意する声)
- ・先生に対しての対応 残したらダメと言うのがストレスになった。
- ・先生に傷つけられたから。
- ・担任に会いたくない。
- ・1年生の時。先生に毎時間怒られていた。叩かれたり、蹴られたりした。

【周囲の目が気になる】

- ・周りの目を気にしてしまて行きづらかった。(性格的に周りを気にしてしまう。)
- ・周りの目が気になった。 ・周りの雰囲気。
- ・自分の容姿について言われた。
- ・自分の容姿が気になり、自意識過剰になって自分が見られるのが恥ずかしくなて、行くのが怖くなった。
- ・会食が苦手。(吐くことに恐怖心、他人も自分も)
- ・夏のプールの着替え、母子分離が出来てなかった。
- ・家から出たくない。

【自らの意思で決めた】

- ・自分で行かないと決めた。
- ・私のプライドが高く色々なことが上手く出来ない自分に自信を持てずその現実を受け入れられ

なかったから。

- ・思っていたのと違った。勉強がつまらない（高IQ）、先生がみんなに注意する声とかがイヤ、みんなの小1のザワザワがイヤ、変化が苦手、先の見通しがないと不安→ママがいないと不安
- ・服とランドセルを身につける
- ・(固有名詞：施設名)を選んで通っている。

【登校する日を決めている】

- ・障害と難病とあるので母のあたしが回答します。学校は週2から週3登校で登校予定日は楽しく毎回ちゃんに行けてます。

問4-2では、児童生徒が学校に行けなくなった際に、どんな支援があればよかったかを当てはまる選択肢について全て選んでもらう多重回答法で答えてもらった。

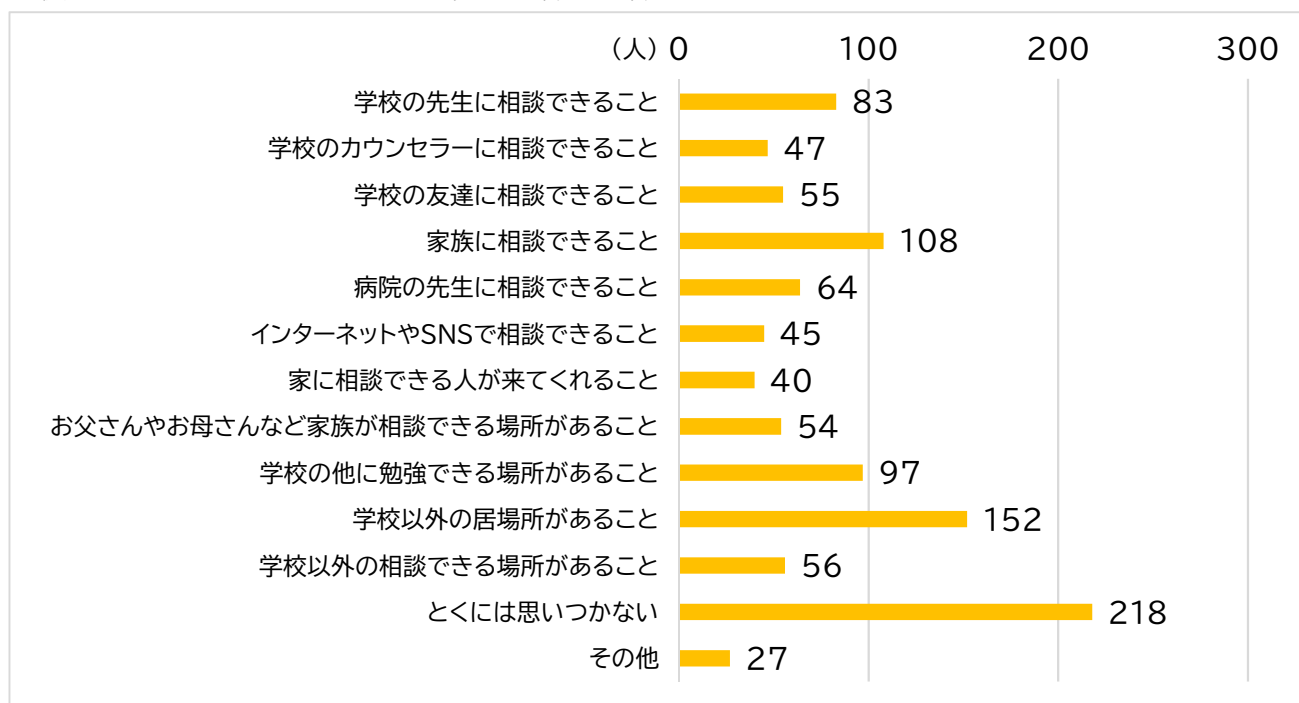


図 2-1-6 学校に行けなくなった際に必要だと感じた支援について

半分程度の児童生徒が「とくには思いつかない」と答え、次に「学校以外の居場所があること」を挙げている。他方、555の有効回答数に対して、最も多い回答の割合が218(全体の39.3%)であったことを考慮すると、多くの児童生徒がこの選択肢以外の理由があった可能性も考慮される。なお、その他の自由記述から、その一端が見える。

表 2-1-10 問 4-2 その他（自由記述）

【何もしないでほしい】

- ・そもそも相談したいと思ってなかった。
- ・ない。なにもしないでほしい
- ・何もしないでくれる
- ・何も考えたくない
- ・少しそっとする、自分で少し考える時間が欲しかった

【支援機関の利用】

- ・2 番…意味なかった 3 番…誰もいなかった 5 番…精神科医・小児科先生がずっと終わってから話を聞いてくれた 11 番…なかった

【学校がこんな場所だったら】

- ・6 年の時の担任が変わってくれば良かったです ㄋ (ˊ ˋ) ㄋ
- ・お母さんが一緒に教室にいてほしかった。
- ・リモート授業。自分の席にカメラ付きのロボットとか置いてあって、授業聞けるとかあったら、嬉しいかも。学校内の別室で、授業を聞いているだけなら出来たかもしれない。学校もしくは教育委員会主催のリモートやメタバースとかウェブ空間での朝の会とかミーティングとか、おうちで勉強するためのサイトとかアプリとかの情報提供や情報交換会、タブレットうまく使いこなすための学習会とかあったら、いいかも。
- ・学校内で、別の部屋などの場所がほしかった。
- ・いじめた子を隔離してくれたら行けたかもしれない
- ・1 人で落ち着ける場所があること
- ・嫌な相手が改心してくれたらそれでいいです。相談しても相手が変わらないと同じだから。

【勉強・学習の工夫】

- ・勉強が面白いと感じさせて欲しかった。詰込みではなく、興味を広げたり思考を深める話をしてほしい。将来の夢に勉強が繋がっていると分かるようにしてほしい。

【見守り】

- ・学校に行きなさい。来てほしいというプレッシャーなく見守ってほしい。

【わからない】

- ・わかりません。

【居場所の利用】

- ・学校以外で、遊べるところ

- ・施設に通っているお陰で楽しい
- ・フリースクールに行けたら良かった。
- ・ゲーム

【理解者の存在】

- ・信頼できるスタッフ
- ・自分を理解してくれる人がいたらよかった。
- ・家族や先生のサポートが元々あって、それがとても良かったです。
- ・病院の先生、学校内で相談しました。
- ・毎に登校日は楽しく学校に行ってます
- ・相談できる人は十分にいました
- ・おばあちゃんに相談
- ・ままだか一緒にいてくれなかった。ままだかが信用できる人。ママ大好き。いつもありがとう